

メダン市派遣を通して

広瀬 由妃

私は、この度メダン市派遣生として市川市の歴史やメダン市と市川市との関わりなどを調べ、インドネシア語や英語を学びました。

インドネシアには、日本とは違う文化や風習があることがわかりました。例えば挨拶の時などに左手を使ってはいけないことや、小さい子の頭をなでてはいけないことなど、日本であたり前のことが現地では通用しないことを知りました。いくらその国のことを知っていたとしても、実際に行くことによって、現地の方とふれあい、わかることも沢山ありました。

インドネシアと日本で一番異なることは、トイレとお風呂だと思います。トイレにはトイレットペーパーがなく、場所によっては流すボタンがないこと。お風呂はバスタブがなく、真水のシャワーしか出てこなかったことです。震えながらシャワーを浴びたのもなかなかできない体験でした。また、ホームステイにおいては旅行では味わうことのできない経験をすることができました。

行く前は楽しみな気持ちと、リーダーとしてみんなをしっかりとサポートできるかななどの不安な気持ちがいりまじっていましたが、インドネシアに着くとホストファミリーや学生会のみなさんが優しく受け入れてくださり嬉しかったです。

夜七時半ごろ空港に到着しホストファミリーの方との対面式が行われました。対面式終了後、市川で習ったインドネシア語で自己紹介をしました。それをホストファミリーが笑顔で聞いてくれて不安な気持ちが少し軽減されました。空港からお家まで専属のドライバーさんが運転をしてくれました。外の風景を見てみるとテレビでしか見たことのない世界が広がっていて感動しました。車よりもバイクの方が多く、日本は最高二人乗りですが、三人乗りをしていたり、私よりも小さい子が家族を後ろに乗せて運転していたりなど、外の景色を見るだけで日本と大きな違いがあることがわかりました。

メダンの高級住宅街は、周りの家々とは雰囲気違います。塀などで囲まれていて門のところに監視カメラが設置され、警備員によって守られていました。お家に着くとお手伝いさんが迎えて下さいました。お手伝いさんは三人ほどで、お料理、掃除、洗濯など、家事のすべてをやっていることに驚きました。

二日目、メダン市市長表敬訪問、九日目、日本国総領事主催夕食会での挨拶は、とても緊張していましたが深呼吸をして、しっかりと言えたので良かったです。また、その中でも、夕食会で日本の伝統である日本舞踊をメダンで披露できたことは、生涯忘れることのない良い記念になりました。

した。感謝の気持ちを込めて踊りました。メダンの皆さんの心に残ってくれたら幸いです。

インドネシア最終日、別れがとても寂しくなり思わず涙が止まりませんでした。オリエンテーションから滞在中のすべての出来事を振り返ると毎日が充実していて、密度の濃い時間をすごせたと思います。

インドネシアで体験したことは沢山ありましたが、帰ってきてからも学んだことがありました。それは、帰国報告会に来て下さった役員の方が私に話しかけてくれた際に、「私たちはインドネシアに何回も行っていますが、あなたたちが行ったお家はほんの一部だけで、実際の一般市民は、そんなに裕福なわけではないのよ。」という言葉が私の心の中に残りました。たしかに私たちが行ったお家は、周りの家々とは場所や環境などが違い、恵まれていたということを改めて感じることができました。

私のお家では、今まで何度かホームステイの受け入れをしてきましたが、この派遣を通じて受け入れる側の気持ちだけではなく、来る側の気持ちも知ることができたので、これから受け入れの際は、ホームステイ先で私が感じた様々な事に配慮し、日本の素晴らしさを一人でも多くの方に知ってもらおうつもりです。

私たち七名がそれぞれに体験できた貴重な経験は、これからの人生に大きな影響と自信につながりました。メダンに行くにあたり、関係者の方々にはどれだけお世話になったかわかりません。心より感謝しています。今回与えてくださったチャンスを、市川市の国際交流にこれからも活かしていくことをお約束します。

本当にありがとうございました。